

令和2年9月30日
農推第1189-6号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

台風の接近や長雨による作物への被害、病害の発生が多い時期ですので注意しましょう。

特に発生に注意

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとりましょう。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻きましょう。なお、成虫がネットを食い破るのを防ぐため、ネットと樹皮が密着しないように、隙間を空けて巻きつけてください。

果樹類全般

果樹カメムシ類

- ・園内で発生を認めたら、アディオン乳剤(かんきつ、かきなど)、スタークル(アルバリン) 顆粒水溶剤(かんきつ、かきなど)などを散布しましょう。

野菜類

シロイチモジヨトウ

- ・ねぎでの発生が多いですが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害します。
- ・老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに薬剤で防除することが重要です。

ハスモンヨトウ

- ・さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、ディアナSC(レタス、にんじん、しゅんぎく、ほうれんそうなど)、コテツフロアブル(レタス、さといも、ずいき、しゅんぎく、みつばなど)、プレバゾンフロアブル5(ピーマン、とうがらし類、レタス、ほうれんそうなど)、プレオフロアブル(にんじん、ごぼう、ほうれんそう、レタスなど)などを散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



果樹カメムシ類によるかき被害



ハスモンヨトウ若齢幼虫※

次の情報は10月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稲

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

- ◆生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」をご参照ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

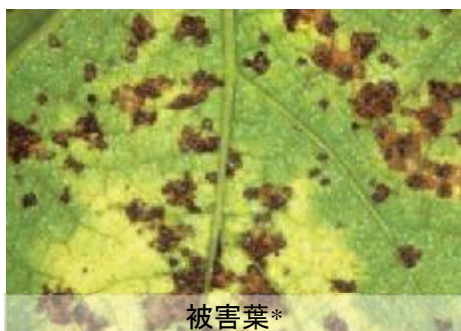
ぶどう

べと病

- ◆発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分しましょう。
- ◆収穫後にICポルドー66D、ICポルドー48Qなどを散布しましょう。
- ◆詳細は、下記リンク先の7月14日発表「露地ぶどう べと病に注意!」をご参照ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0207beto.pdf>

褐斑病



被害葉*

特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、キャンベルアーリーに発生が多い。
- ◆秋期落葉期まで発生し、落葉を早める。

防除のポイント

- ◆枯枝や落葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。

ブドウトラカミキリ



成虫※

特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、被害を受けた部分は黒くなる。虫のいる枝の先の新梢はしおれて枯れる。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬である。

防除のポイント

- ◆被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆収穫後の成虫発生時期に、**スミチオン乳剤**、**モスピラン顆粒水溶剤**（収穫後秋期）などを散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

もも

せん孔細菌病



発病枝(夏型枝病斑)

特徴

- ◆落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

防除のポイント

- ◆薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- ◆被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆9月上旬～10月上旬頃にICボルドー412などを2週間間隔で計3回散布する。

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆降雨が多いと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを予防的に散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- ※かんきつ(みかんを除く)では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉*

特徴

- ◆葉や果実に寄生して吸汁し、吸われた部分は色が抜けて白くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の5月13日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyojyohou/R0205kubiaka.pdf>

果樹類全般

果樹カメムシ類

果樹カメムシ類の特徴および防除方法については、下記リンク先の6月3日発表の防除情報「果樹カメムシ類に注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyojyohou/R0206kame mushi.pdf>

なす

褐紋病



被害葉※

特徴

- ◆主に露地栽培で発生する。
- ◆降雨により発生が増加する。
- ◆かびの一種で葉・茎・果実に感染し、病斑を生じる。

防除のポイント

- ◆摘葉し、ほ場内の風通しを良くする。
- ◆発病を確認したら、小黑点(柄子殻)が生じる前に発病部位を取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、**ベンレート水和剤**、**スクレアフロアブル**を散布する。
- ◆種子伝染するため、感染した株からの採種は行わない。
- ◆発病した株は、ほ場からきれいに取り除き、周辺に放置しない。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆露地栽培では、天敵昆虫の温存のため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
- ◆発生を認めたら、**アファーム乳剤**、**ディアナSC**、**プレオフロアブル**、**モベントフロアブル**、**アグリメック**などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

きゅうり(施設抑制栽培)

うどんこ病



被害葉

特徴

- ◆日照不足、他の病気に比べやや乾燥した条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI 剤、SDHI 剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回 程度の使用に留める。
QoI 剤の例：アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25
SDHI 剤の例：アフェットフロアブル、パレード20フロアブル
- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

べと病



被害葉

特徴

- ◆肥切れは発生を助長する。
- ◆多湿環境下の15～28度で感染し、最適温は20～25度である。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブルなどを散布する。
- ◆発生を認めたらベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

特徴

- ◆窒素過多は発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗(2mm目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期に**プレバソフロアブル5**、**ゼンターリ顆粒水和剤**、**アフーム乳剤**などを散布して防除する。

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。
- ◆きゅうり黄化えそ病のウイルス(MYSV)を媒介するので、防除を徹底する。

防除のポイント

- ◆ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、**モベントフロアブル**、**プレオフロアブル**、**ディアナSC**、**アフーム乳剤**などを散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどではは種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理剤あるいは定植時施用粒剤と、本ぽでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること



幼虫*

特徴

- ◆幼虫が芯葉を食害するため、株が芯止まりになる。
- ◆発生量が急増することがある。

防除のポイント

- ◆寒冷しゃ等の被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソンフロアブル5**（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）、**ペリマークSC**（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）などのかん注する。
- ◆発生を認めたら、**アフーム乳剤**（キャベツ、なばな類、だいこん等）、**スピノエース顆粒水和剤**（キャベツ、はくさい、非結球あぶらな科葉菜類）を散布する

野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

シロイチモジヨトウ

6月26日発表の防除情報「シロイチモジヨトウに注意！」をご確認ください。

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0206shiroichi%20.pdf>

野菜類・花き類全般

ハスモンヨトウ



若齢幼虫

特徴

- ◆ 8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**（レタス、にんじん、しゅんぎく、ほうれんそうなど）、**コテツフロアブル**（レタス、さといも、ずいき、しゅんぎく、みつばなど）、**プレバソンフロアブル5**（ピーマン、とうがらし類、レタス、ほうれんそうなど）、**プレオフロアブル**（にんじん、ごぼう、ほうれんそう、レタスなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害箇所のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**プレオフロアブル**（ピーマン、とうがらし類、レタス、花き類など）、**アニキ乳剤**（ピーマン、とうがらし類、レタス、きくなど）などを散布する。